

サマーレビュー2017 調書

1 部局名 (課名)	健康福祉部 (介護保険課)
2 協議事項 (案件名)	介護給付費準備基金の活用及び保険料の応能負担の見直しについて
3 背景・現状	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度に 30 年度から 32 年度までの 3 年間を計画期間とする第 7 期介護保険事業計画を策定するにあたり、介護給付費の見込を基に保険料基準額等を定めなければならない。 <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者人口の増加に伴い、介護給付費は増加しており、次期計画においても保険料基準額の上昇が見込まれる。 ・第 6 期計画 (H27～H29) では、介護給付費準備基金を取崩すことで保険料基準額の上昇幅を抑制したが、介護給付費が見込みを下回ったため取崩しが不要となり、29 年度末基金残高は計画策定時より上回る見込み。 ・保険料の応能負担の見直しのため、第 6 期計画時において合計所得金額 1,000 万円以上の人については料率 2.25 の段階を設定。
4 検討経過・課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 介護給付費準備基金の適正な水準については保険者が決定するものとしており、介護給付費準備基金を活用し次期計画期間の歳入として繰り入れ保険料上昇抑制に充てる。 ② 保険料上昇への対応として、所得水準に応じたきめ細かな保険料設定を行う。
5-1 方向性の提案	<ul style="list-style-type: none"> ① 基金活用による保険料上昇の抑制 ② 低所得者層の保険料率見直し及び本人課税層の多段階化
5-2 論点 方向性の決定 に向け議論 する事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 適正な基金残高と活用額 ② 所得水準に応じた保険料段階及び保険料率の設定の必要性

6 結果	<input checked="" type="checkbox"/> 提案どおり進める <input type="checkbox"/> 提案内容を一部見直して進める <input type="checkbox"/> 再度、調査研究等を行い検討 <input type="checkbox"/> その他	<p>具体的内容</p> <p>➤ 最高料率のあり方については他の指定都市の料率や段階設定の見直し状況等の情報収集を進め、引き続き検討していく。</p>
7 その他		